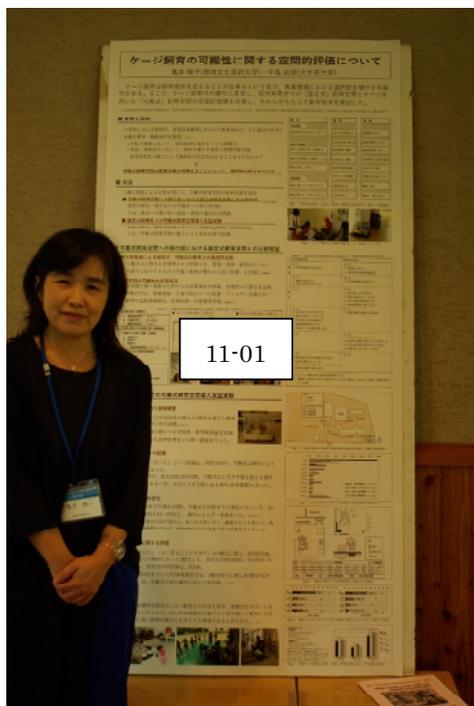


ポスター発表 ケージ飼育の可搬性に関する空間的評価について

亀井 暁子*・中島 由佳**



はじめに

小学校における飼育舎での動物飼育は明治期より確認でき、今日まで続けられてきた。しかし現在、様々な課題に直面している。近年みられるケージ飼育は、その設置場所を移動させることによって飼育場所を変えることが出来るという点で、教育現場における選択肢を増やす可能性がある。そこでケージ飼育の可搬性に着目し、現在多く見られる屋外飼育舎での「固定式」の飼育空間と、ケージを用いた「可搬式」の飼育空間の空間的価値を評価し、それらがもたらす教育効果を検証した。なお本稿は、日本建築学会環境系論文集に掲載された論文「現代の教育現場における動物飼育空間のあり方に関する研究 固定式飼育空間と可搬式飼育空間の教育効果の検証」(亀井暁子・中島由佳・中野民雄・竹山聖)の紹介となる。

1 研究の背景・目的・方法

小学校における動物は、学習指導要領で明示された教育目的の限りにおいても、複数教科におい

て扱われ多くの目的と関連づけられている。これら教育目的について、達成のために必要な要求事項及び機能的条件を整理し、学校の環境においてこれら条件を満たし適していると考えられる場所について検討した。その結果、一時的であれば条件を満たすことが可能であっても、常時継続という観点では課題が残った。そこで、気候や運用状況に応じて、適宜条件を満たす場所にて飼育を行うことが可能な様、飼育空間を可搬式とすることによって諸条件の両立をはかることができないかと考えた。可搬式の飼育空間についての教育効果を評価することによって、新たな選択肢の可能性を示すことができるのではないかと考えた。

本研究は、現代の教育現場における動物飼育の課題に対し、飼育空間と教育効果の観点からアプローチすることを通じて、現代の学校建築における動物飼育空間のあり方について検証し評価することを目的とする。これまで一般的であった屋外飼育舎による「固定式飼育空間」と近年新たにみられる飼育ケージを用いた「可搬式飼育空間」について、二種の方法により検証する。第一に、飼育舎での固定式飼育からケージを使用した可搬式飼育へ移行した学校における固定式飼育空間との比較検証を通じて、可搬式飼育空間の特性把握と課題の抽出を行う。第二に、固定式飼育校での可搬式飼育空間導入実証実験による教育効果の比較・検証を行う。



図1 可搬式飼育校での飼育活動の様子

2 可搬式飼育への移行校における固定式飼育空間との比較検証

飼育舎にて固定式飼育を実施していたが、ケージ飼育を導入し可搬式飼育へと移行した3校を対象に行った。

固定式・可搬式空間比較評価は、教員からの聞き取り内容を、運用・動物の状況・児童と動物の関わり等の三観点に分類し、長所・短所いずれとして評価しているかを調査した。可搬式は人間の生活環境の中で管理が行き届く飼育環境となることから、清掃のしやすさや動物のしつけ、児童の触れやすさの点で児童と動物の関わりに良い影響を及ぼしていると捉えられていた。(表1)

表1 可搬式移行校教員が挙げる長短所

	固定式飼育空間	可搬式飼育空間
運用	長所 1) 学校閉鎖期間も世話が可	長所 1) 施設無し 2) 常時管理が可能(開校時)
	短所 1) 施設が必要 2) 夜間に管理が出来ない	短所 1) 学校閉鎖期間に世話不可
動物	長所	長所 1) 排泄・餌しつけが可能 2) 動物が児童になつく 3) 野生動物の影響懸念無し 4) 温熱環境確保が可能
	短所 1) 排泄・餌しつけができない 2) 動物が児童になつかない 3) 野生動物からの疾病懸念 4) 温熱環境確保出来ず 5) 雨の降りこみ, 動物の濡れ	短所 1) 児童が動物を負傷の懸念
児童	長所	長所 1) 清掃活動が容易である 2) 雨天時の動物との関わり 3) 好きな時に動物と接触 4) 児童の目にふれやすい
	短所 1) 飼育活動の大部分が清掃 2) 雨天時に関わりにくい 3) 動物とは清掃時, 手袋越し 4) 飼育時以外関わり難い	短所

飼育空間の可搬性の活用状況は、3校いずれも主となる設置位置を定めた上で、目的に応じて設置場所を複数移動して運用していた。その動機は、授業運営や児童と動物の関わりへの配慮、動物のための温熱環境確保、長期休暇時対応や大規模清掃対応等であった。各校とも、教育上・管理上・動物の環境確保と、複数の異なる目的のために可搬性を利用した運用を行うことによって、各目的での設置場所の不都合な点を減じていた。(表2)

可搬式は管理運用及び動物の環境確保や児童

表2 可搬式飼育空間移動状況と動機

主設置位置/設置高さ	
A校、C校	職員室前廊下 / FL±0
B校	児童昇降口 / FL+800
主設置位置以外の設置位置と移動動機	
1	授業での活用・児童への配慮 A校 昇降口外、B校、C校 教室内 C校は昼食時に教室横オープンスペースへ移動
2	動物のための温熱環境確保 A校、B校、C校 職員室内
3	長期休暇・大清掃 長期休暇時：A校、B校、C校 教職員宅連れ帰り 大掃時：C校 屋上テラス



図2 左より A校職員室前廊下、A校昇降口外、B校児童昇降口

と動物の関わり等の観点で総じて好意的評価を受けていた。これは設置場所が移動できる可搬性に加えて、その大きさや構造上の理由から、廊下等設置場所に選択肢を見出しやすいことも影響していると考えられる。

3 固定式飼育校での可搬式飼育空間導入実証実験

屋外飼育舎での固定式飼育実施校に、可搬式飼育空間(飼育ケージ)を導入することによってその効果を検証する。導入による教育効果の評価は、動物との関わりに対する児童の認識・児童の飼育空間での滞在状況・関わり時の近づきやすさと視認に関する児童の評価・その環境における児童に

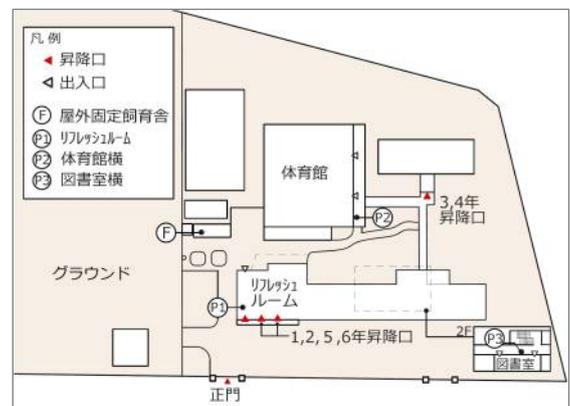


図3 可搬式飼育空間導入実験校飼育舎・可搬式設置位置

